様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３２６１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２２２２

研究課題名（和文）ヒマラヤ地域における梵文写本の請来者および伝来径路の同定

研究課題名（英文）Identification of transmitters of Sanskrit manuscripts to Himalayan area and their footsteps

研究代表者
加納　和雄（Kazuo, Kano）

駒澤大学・仏教学部・准教授

研究者番号：００５０９５２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：インドに由来する仏典の梵文写本をヒマラヤ地域に、「だれ」が「どのように」請来したかについて明かすために、写本の請来者と伝来径路の同定を目標として、四種の史料を用いた。①梵文写本の奥書に記される写本所有者名、②チベット語大蔵経諸本の奥書に登場する写本所有者名、③チベット語蔵外文献から確認できる梵文写本への関連言及、④チベット語伝記・仏教史類における梵文写本への言及である。それらによって流伝経路の作成と人物ごとの事績をまとめた。さらにチベットに伝来した梵文写本がどのように伝承されたのかという点も検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来、仏典梵文写本の研究は内容解読に偏ってきたが、本研究はそれを史料と捉え直して仏教流布の時代・地理範囲を知るための物証とした点に独創性がある。その学術的・社会的意義は、(1)インド・チベットの文化交渉という抽象度の高い事象を視覚化しうる点、(2)後代の脚色が混在するチベット史料類から独立した信頼性の高い手かがりが得られる点、(3)写本の流伝経路を地図上にトレースし人的交流を可視化しうる点、(4)異文化交流解明の手掛かりに写本を用いて新たな研究モデルを提示し方法論的展開をもたらし得る点、(5)チベット歴史学研究に展開しうる点、(6)チベット伝統文化の歴史理解と保存に寄与し得る点である。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify "who" and "how" the Sanskrit manuscripts of Buddhist scriptures originating in India came to the Himalayan region, this study aimed to identify the procurers of the manuscripts and the transmission routes. Four types of historical sources were utilized: 1) the names of manuscript owners recorded in the colophons of the Sanskrit manuscripts, 2) the names of manuscript owners mentioned in the colophons of Tibetan Canon, 3) the references to the Sanskrit manuscripts found in Tibetan non-canonical literature, and 4) the references to the Sanskrit manuscripts in Tibetan biographies and Buddhist historical texts. Based on these sources, the routes of transmission were reconstructed, and the achievements of each individual involved were compiled. Furthermore, an investigation was conducted into the manner in which the Sanskrit manuscripts transmitted to Tibet were further disseminated.

研究分野：仏教学

キーワード：チベット伝存梵文写本　梵文写本の請来者　梵文写本の流伝経路　チベットにおける梵本の保存　僧院における梵本の所有と相承　梵文写本による印蔵文化交流　梵文写本所蔵寺院と借覧状況

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

梵文仏典写本は、アジア諸地域に流布する各国語に訳された仏典の、オリジナルの言語を直接に確認しうる唯一の原典資料であり、インド仏教の原像を知るための第一次資料である。なかでもチベット伝来の梵文仏典写本は、高地特有の乾燥・寒冷な気候のおかげで、とりわけ古いものが多く、保存状態も良好である。そのほとんどは、インド留学をしたチベット人の翻訳僧たちや、インド仏教終焉期に難を逃れチベットへと亡命したインドの高僧たちがもたらした写本であり、10～14 世紀にインド（中世南アジア仏教文化圏）で作製されたものである。チベット人たちは、インドからもたらされたこの「宗教文化遺産」を寺院の至宝として厳重に管理してきたため、相当な数が現在にまで残されている。

それらチベット伝存の仏典の梵文写本は、すでに 1930 年代以来、資料価値の高さが注目されてきた。そして近年も様々な国際的なプロジェクトによって、さらなる梵文写本の存在が明るみに出てきつつある。そしてそれらの先行研究における大きな関心は、もっぱら写本そのものよりもそこに記された内容に向けられてきた。そこにおいて解明が目指されてきたのは、梵文写本に保存される、失われたインド仏教の原像にほかならない。他方、写本そのものが貴重な文化遺産であることについては、左程大きな関心は払われてこなかった。

かくいう申請者自身も、未比定写本の解読、目録の整備、電子化という 3 点に焦点を当てた研究を遂行し発展研究の可能性を模索してきたが、それらは依然として、インド仏教の原像再現を目標に定めた研究であって、「もの」としての写本自体に焦点を当てた訳ではなかった。

２．研究の目的

かくして失われたインド仏教を再現するために写本の内容の読解が進むいっぽうで、インドからチベットに請来されたそれら写本そのもののもつ史料的価値に注目した研究は、まだまだ解明の途上にある。本課題は特に、写本自体の辿ってきた歴史を明かすべく、写本の請来者と伝来経路の同定を目指した。それによって南アジア・ヒマラヤ地域間の文化交渉の一側面を視覚的に明らかにしようと試みた。

３．研究の方法

インドに由来する仏典の梵文写本をヒマラヤ地域に、「だれ」が「どのように」請来したかについて明かすために、写本の請来者と伝来径路の同定を目標として、四種の史料を用いた。①梵文写本の奥書に記される写本所有者名、②チベット語大蔵経諸本の奥書に登場する写本所有者名、③チベット語蔵外文献から確認できる梵文写本への関連言及、④チベット語伝記・仏教史類における梵文写本への言及である。史料としての信頼性は、①が最も高く、④に向かうほど情報に歪みが竄入する可能性が高くなる。まず①の調査を優先的に遂行し、それを補充すべく②③④の調査を遂行した。また伝来径路は文献調査結果を現地調査で裏付けを行った（報告者による過去の現地調査データを用いた）。さらにチベットに伝来した梵文写本がどのように伝承されたのかという点を検討した。

４．研究成果

（１）主な梵文写本請来者について時代順にまとめると次の通りである。

①インドからチベットへ梵文写本を請来した人物の中でも最初期の一人と目されるのはカマラシーラ（8 世紀）である。彼は招請に応じてナーランダー僧院から中央チベットへ赴きサムイェー寺の宗論に参加した。彼の著作『中観光明論』の梵本は 1047 年に同寺のペーカル院北側の小室でアティシャによって確認されている。アティシャは、当時のインドで既に散逸していた同作品を複写してインドに送ったと述べるので、同梵本はカマラシーラの時代に請来されていた可能性がある（加納 2012）。

②11 世紀前半にはアティシャ（982～1054）が招請に応じて 1040 年にヴィクラマシーラ僧院を発ち、翌年ネパールを経て、1042～1045 年頃に西チベットに滞在し、その後、中央チベットに滞在してそこで没した。没後、彼が請来した梵本の一部はインドに返還されるも、多くがレテ

ィン寺に保存され、紆余曲折を経て現在はポタラ宮に保管される（加納 2012, Kano 2015）、それらの一部は最近研究の緒に就いた（Ye et al 2023）。

③アティシャに師事したチベット人訳経僧リンチェンサンポ（954〜1055）は、西チベットからカシュミールへ渡り、瑜伽タントラ階梯の密教聖典を学んで請来したと考えられる。近年トリン寺の仏塔遺構から出土した樺皮梵文写本を網羅的に調査することにより彼の請来本が同定されると期待される。

④1076〜1092 年頃にかけて西チベット王ワンデの支援を受けてカシュミールなどに滞在したチベット人訳経僧ゴク・ロデンシェーラプ（1059〜1109）は、チベットに帰還した後にも多くの仏典を訳したが、それらの底本とされた梵本が彼に多数請来されたとみられる。トリン寺遺構出土写本からは『量評釈』の樺皮写本の断簡が見つかっており、今後その一部から彼の請来本が同定されると期待される。

⑤ゴクの師であるカシュミール仏教徒サッジャナ（11 世紀）の諸作品は、梵文写本がチベットに伝存する。その写本にはサッジャナの息子マハージャナの作品も一緒に収録される。マハージャナはチベットに滞在したので、彼がこの梵本をチベットへもたらしたのであろう。その写本は、カシュミールでは採取不可能な貝葉素材にカシュミールのプロトシャーラダー文字で筆記された特異な体裁をもつことから、その成立の背景に「越境」が想定される（後述）。この写本はやがてタルパリン寺のチェル翻訳師チューキサンポ（1217/29 頃没）の手に渡った。彼は代々翻訳僧を輩出した名門チェル家の出身だが、この梵文写本はその家系に伝承されていた。このことは写本冒頭のチベット文の書き込みによって知られる。さらにこの写本は恐らく 14 世紀にプトゥンの手を経てシャル寺奥の院リプクにもたらされた（Ye Li Kano 2013、現在はラサに移管）。

⑥12 世紀のチベット人訳経僧ヌル・チューキタクパは、ヴィクラマシーラ僧院などでアバヤーカラグプタに師事し、恐らく当地で『入菩提行論難語釈』を翻訳した（加納 2018a）。彼が同作品のチベット訳をチベット文字で貝葉に書き記した写本は現存しており、ごく最近その奥書の中に彼の名が確認された（CTRC の李学竹氏のご助力による）。この事例は、チベット紙が入手できないインドの現地において代替の書写素材として貝葉にチベット語を記したことを明かし、「越境」を背景として成立した写本の好例でもある。彼が貝葉にウメ字体で梵文を転写した別の写本も確認されており、それらはテン翻訳師（1107〜1190）によりチベットに請来されたといわれる（Yonezawa 2016）。

⑦アバヤーカラグプタの作品『牟尼意趣荘厳』の梵本の奥書には「チャク翻訳師（1197〜1263 頃）の施物」（御本）と読みうる一節があり（Ye 2009）、その読みが正しければ、同梵本はインド仏跡巡礼記を著したチャクの請来本となる。これと極めて類似した体裁をもつ『次第月光』梵本は苫米地等流氏により読解が進められており、これもチャクの請来本である可能性が高い。

⑧アバヤーカラグプタのもとで学んだチベット人訳経僧ツルティムギェルツェンは、『維摩経』『智光明荘厳経』『宝雲経』『楞伽経』梵本の奥書に Śīladhvaja と言う名で登場し、これら梵本の奥書では、これらが彼の「施物」（御本）であると記される。そして前二者はゴーパーラ王 12 年目、後二者は各々13 年目、18 年目の年号が付される（Vinita 2023）。これらは⑥の事例とは異なり、筆記者は請来者とは別人であって、Cāṇḍoka および Candrabala という専門のインド人職能者により複写されたことが奥書に記される。

⑨13 世紀のヴィブーティチャンドラは、「最後のパンディタ」シャーキャシュリーバドラと共にチベットに亡命した人物であり、彼のもたらした梵文写本は、チベット紙に東インドの文字で記された特異な体裁をもつ。かかる体裁の写本には、チベット滞在時に彼が手ずから筆記した『学処集成』『量評釈荘厳』『量評釈注』などが伝わるほか、彼の自作の詩稿も伝存し、後者はチベットにおける彼の苦悩が綴られる生々しいものである（加納 2018b）。

⑩1282〜1284 年の間にカトマンドゥの書写職人たちが依頼を受けて複写した『十万頌般若』『入法界品』の貝葉写本がサキャ寺に伝存する。その依頼主は、奥書によると「サキャ寺の Kīrtidhvaja」とされる。この人物はチベット僧ヤルルン翻訳師タクパギェルツェンに同定され、パクパを追悼するために作成された一連の写本の一部をなす可能性が高い（加納 2018a）。

⑪14 世紀に西ネパールのヤツェ王が贈呈した紙写本が 20 世紀前半までポカン寺に存在した。寄贈先は不明だが、プンニャマッラが 1330 年代にプトゥンに寄贈した品々の一部だった可能性がある（cf. Petech 1984: 38）。その中には散逸した『法法性分別論』梵本も含まれていたが、チベット騒乱の前後で灰燼に帰したという。ラーフラ・サーンクリティヤーヤナに報告される同写本の奥書によると、リプマッラの時代の 1314 年に作成された写本である。またゲンドゥンチューペルによると、シャル寺リプクにはヤツェから贈呈された別の写本（声聞地と菩薩地）が存在したという。これらは外交の場で梵文写本が贈呈されたことを示す稀少な例といえる（加納 2020）。

⑫インドの仏教僧院の衰滅から時を経た 15 世紀、ベンガル地方出身の居士ヴァナラトナ（1384〜1468）はチベットを訪れた。彼の作品はチベット訳として残り、その一つ『不動現観』は梵文写本がゴル寺に伝わった。彼はチベット僧たちから授かった密教の口伝をチベット語からサンスクリット語に翻訳して貝葉写本に書き留めた。その写本は、彼がその後に滞在したカトマンドゥに伝わり、現在、イギリスのホジソン・コレクションに収録される（Isaacson 2008, Delhey 2021）。

その他、プトゥン、ションヌペル、シャル翻訳師チューキョンサンポ、ターラナータをはじめ、梵文写本の伝承に寄与した人物は多いが割愛する。将来的には彼らの事績を一冊にまとめる予定である。また、梵文写本中のチベット文字のメモ書きに見られるチベット僧たちについては Kano 2015 の附論を参照されたい。

先行研究においては上記のような事例の個別研究は皆無ではないが、包括的な研究は十分になされていない。その中において Huber 2008 は中世以降のインド・チベット間の仏教徒の交流を通時的に扱う包括的視座を具えた優れた業績だが、そこでは梵文写本の請来者については光が当てられなかった。その点で本課題の成果は同分野の開拓に寄与しうるものといえる。

（２）梵文写本の伝播径路については、上記の人物が用いたであろう当時の交易路に基づいて下記のような径路を想定した。作図にあたっては Huber 2008 の地図をもとにし、2006 年に報告者が測定した踏査結果も一部組み込んだ。関連資料を追加することでその精度を高めることが課題となる。

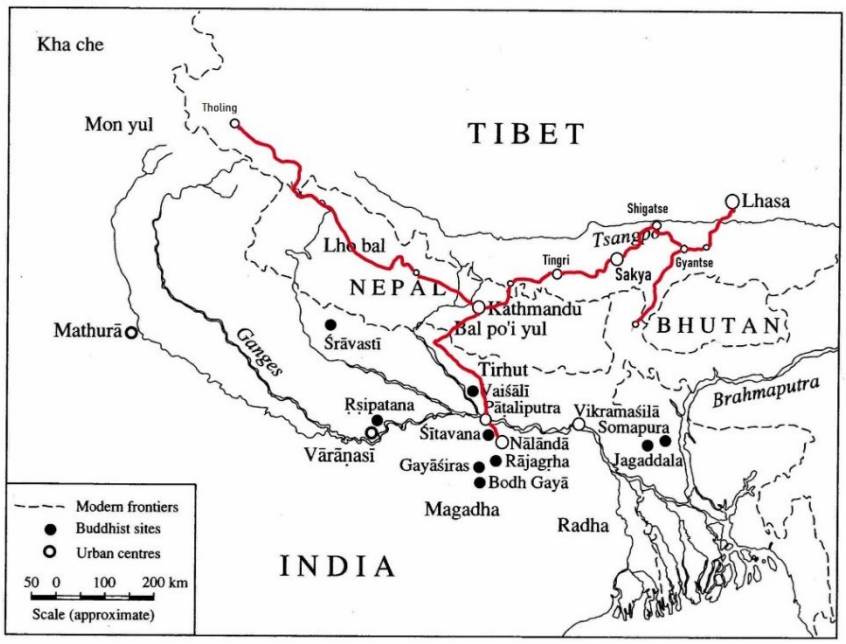

Figure 3.1. Tibetan Buddhist experience of India prior to 1300 CE.
Drawn by Norma Schulz and Toni Huber.

（３）本課題で扱った梵文写本とそれに携わった人物の事例は、11〜15 世紀頃を中心とする南アジアとヒマラヤ地域の文化の境界の「越境」を如実に映し出す。とりわけ「越境」という特徴を視覚的に示すのが写本のフォーマット、すなわち書写素材と文字の組み合わせである。通常、両者は特定の地域に根付いており、その組み合わせは固定しているが、「越境」すなわち人物の移動が生じたとき、その組み合わせに「ずれ」が生まれる。その「ずれ」は、たとえばチベット紙に東インドの文字が記された「蔵紙梵文写本」、東インド産の貝葉にチベット文字が記された「貝葉蔵文写本」、東インド産の貝葉にカシュミールの文字が記された「貝葉シャーラダー写本」、カシュミール産の樺皮にチベット文字が記された「樺皮蔵文写本」といった、ある地域の素材と別の地域の文字を組み合わせた「異種混合」の形態で確認される。これらの事例はチベットに伝存する梵文写本において特に顕著に確認され、異文化を「越境」した証として注目される。その具体例の一部は加納 2020 で論じた。

（４）このような梵文写本が実際にインド・チベットの僧院においてどのように所有され伝承にされたのかという点ついては不明な点が多い。写本の所有者は奥書の「誰々の施物」「誰々の書（pustaka, phyag dpe）」といった記述から確認でき、場合によってはそこに複数の人名が挙がり相承されたことも知られる。インド仏教僧院において比丘個人が写本を所有していたことを示す文献的証拠は少ないが、たとえば義浄によると「経箱は僧房内の隅に置き、寝室とは別の房に

置く」（大正 54, 221b15–16）とされ、『央掘魔羅経』蔵訳では比丘が個人所有を許可された「六物」の中に梵夾が含まれ、『ラトナーヴァリー』3.38 には経典複写とプスタカと墨と筆記具の比丘への布施が推奨される。このような散見される記述から、比丘個人の写本の所有は認められていたと理解できる。いっぽうで写本の相続については『根本説一切有部律』「衣事」では亡くなった比丘の遺品の中で仏典の写本は、個人に分配されず、サンガ共有の保管庫に保管すべしとある。すなわち同律では写本の遺産相続が認められていない。この事実は奥書に複数の人名が写本の所有者として列挙される事例と一見したところ矛盾する。ただし写本所有者が生前に写本を弟子に渡したと解釈するならば矛盾は生じない。

また律典には写本の所有や複写や偸盗などを巡る規定が散見される。それらを網羅的に検討することによって僧院における写本の位置づけがより明瞭となるであろう。

チベットの仏教僧院には梵文写本を保管するための「写本堂」やそれに類する堂宇が存在するが、インド仏教僧院にそのような建造物が存在したのかは不明である。確かにナーランダー僧院の碑文から「回転式経蔵」（mañjūṣā）を予想される一節が Schopen に報告され、ヴィクラマシーラ僧院には「経蔵」の存在が示唆されるが（Delhey 2015）、いずれも確定的なものではない。またガンダーラからは、法蔵部の銘が入った壺に納められたガンダーラ語の樺皮写本群が出土しており、当時の写本の保管方法に示唆を与える。このような事例を網羅することによって僧院における写本の保管方法が明かされることになると期待され、今後の課題としたい。

＜引用文献＞

加納和雄 2012.「アティシャに由来するレティン寺旧蔵の梵文写本—1934 年のチベットにおける梵本調査を起点として—」『インド論理学研究』4: 123–161.

——2018a.「越境する梵文写本—中世のヒマラヤ地域と南アジアにおける物と人の交流の一側面—」岩尾一史・池田巧編『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』臨川書店: 261–277.

——2018b.「ヴィブーティチャンドラの詩稿」『印度学仏教学研究』66(2): 191–196.

——2020.「中世チベットの僧院における梵文写本の蔵書例：ポカンとリウォチェ」『印度学仏教学研究』68(2): 194–200.

Delhey, Martin. 2015. The Library at the East Indian Buddhist Monastery of Vikramaśīla: An Attempt to Identify Its Himalayan Remains. Manuscript Cultures 8: 3–24.

——2021. The 'Vanaratna Codex': A Rare Document of Buddhist Text Transmission (London, Royal Asiatic Society, Hodgson MS 35). Stefanie Brinkmann, Giovanni Ciotti, Stefano Valente and Eva Maria Wilden (eds.). *Education Materialised*. Berlin, Boston: De Gruyter, 379–397.

Huber, Tony. 2008. *The Holy Land Reborn: Pilgrimage and the Tibetan Reinvention of Buddhist India*. Chicago: The University of Chicago Press.

Isaacson, Harunaga. 2008. Himalayan Encounter: The Teaching Lineage of the *Marmopadeśa*. *Manuscript Cultures* 1: 2–6.

Kano, Kazuo. 2015. Transmission of Sanskrit manuscripts from India to Tibet: In the case of a manuscript collection in possession of Atiśa Dīpaṃkaraśrījñāna. *Transfer of Buddhism Across Central Asian Networks (7th to 13th Centuries)*. Leiden/Boston: Brill, 82–117.

Petech, Luciano. 1984. *Medieval History of Nepal (c. 750–1482)*. Second, thoroughly revised edition. Rome: Istituto italiano per il Medio ed Estremo Oriente.

Vinita, Tsen. 2023. Śīladhvaja — his four manuscripts and his identity. Noriyuki Kudo (ed.). *Śāntamatiḥ: Manuscripts for Life— Essays in Memory of Seishi KARASHIMA*: 403–421.

Ye, Shaoyong. 2009. A preliminary survey of Sanskrit manuscripts of Madhyamaka texts preserved in the Tibet Autonomous Region. Ernst Steinkellner et al. (eds.). *Sanskrit manuscripts in China*. Beijing: CTRC, 309–337.

Ye, Shaoyong, Li, Xuezhu, and Kano, Kazuo. Further Folios from the Set of Miscellaneous Texts in Śāradā Palm-leaves from Zha lu Ri phug: A Preliminary Report Based on Photographs Preserved in the CTRC, CEL and IsIAO. *China Tibetology* 20: 30–47.

Ye, Shaoyong, Phun tshogs Tshe brtan, Dngos grub Tshe ring 2023. A Preliminary Report on the “Burnt Manuscripts” from Retreng Monastery: Bundle A. Kudo, Noriyuki (ed.). *Śāntamatiḥ: Manuscripts for Life— Essays in Memory of Seishi KARASHIMA*: 447–465.

Yonezawa, Yoshiyasu. 2016. sTeng lo tsa ba Tshul khrims 'byung gnas: Tibetan Translator of the *Vinayasūtravṛtty-abhidhāna-svavyākhyāna*. *Journal of Indian and Buddhist Studies* 64(3): 1147–1154.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計47件（うち査読付論文　33件／うち国際共著　25件／うちオープンアクセス　36件）

１．著者名 加納和雄	４．巻 1
２．論文標題 チベットにおける如来蔵思想の展開	５．発行年 2021年
３．雑誌名 チベット仏教の世界	６．最初と最後の頁 205-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kazuo Kano	４．巻 1
２．論文標題 A Later Interpolation or a Trace of the Earliest Reading? -Ratnagotravibhaga 5.19 and an “Extra Verse"-	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Gateways to Tibetan Studies	６．最初と最後の頁 509-541
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加納和雄・李学竹	４．巻 52
２．論文標題 声聞の離欲と菩薩の大悲－Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注（2）－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 駒澤大学仏教学部研究	６．最初と最後の頁 95-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 加納和雄・李学竹・横山剛	４．巻 25
２．論文標題 梵文和訳『牟尼意趣荘厳』－器世間解説前半部－」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 インド学チベット学研究	６．最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、李学竹、葉少勇、壬生泰紀、北山祐誓、安川真由、道元大成	4．巻 25
2．論文標題 「如来秘密経の梵文佚文―Sutralamkaraparicaya帰依品より―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 インド学チベット学研究	6．最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 69-1
2．論文標題 Nayatrayapradipa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya―顕密の体系を概述する三点の梵文作品―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 129-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 加納和雄	4．巻 80
2．論文標題 宝性論の仏説観（２）―arsaの語義と類型―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 駒澤大学仏教学部紀要	6．最初と最後の頁 53-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 加納和雄、Jowita Kramer、横山剛、田中裕成、 Sebastian Nehrdich、中山慧輝、小南薫	4．巻 3
2．論文標題 律儀獲得の範囲と動機―倶舎論安慧疏・業品第36偈ab句の梵文和訳―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 対法雑誌	6．最初と最後の頁 43-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 248
2．論文標題 アバヤーカラグプタの大乗仏説論－牟尼意趣荘厳論第4章から－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 密教文化	6．最初と最後の頁 7-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄，伊集院栞，倉西憲一，ピーター・ダニエル・サント	4．巻 7
2．論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第5章1-20偈：物語りと仮面劇	5．発行年 2022年
3．雑誌名 川崎大師研究所紀要	6．最初と最後の頁 89-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kazuo Kano, Jowita Kramer	4．巻 1
2．論文標題 The Fourth Chapter of the Tattvartha; Abhidharmakosatika: On Forbidding Intoxicating Liquor	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Birgit Kellner, and Jowita Kramer, Li Xuezhu (eds.), Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies August 1 to 4	6．最初と最後の頁 107-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kazuo Kano, Xuezhu Li	4．巻 1
2．論文標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munimatalamkara	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Birgit Kellner, and Jowita Kramer, Li Xuezhu (eds.), Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies August 1 to 4	6．最初と最後の頁 45-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、李学竹	4．巻 51
2．論文標題 声聞による大乗の真実観批判－Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注（1）－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 駒澤大学仏教学部論集	6．最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 25
2．論文標題 チベット料理の歴史の解明にむけて―中近世のもてなし料理二例―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 フィールドプラス	6．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 79
2．論文標題 宝性論の仏説観（１）―第5章18・19偈とその背景―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 駒澤大学仏教学部紀要	6．最初と最後の頁 81-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄、葉少勇、李学竹、壬生泰紀、北山祐誓、安川真由、道元大成	4．巻 24
2．論文標題 郁伽長者所問経の梵文佚文－Sutralamkaraparicaya帰依品より－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 インド学チベット学研究	6．最初と最後の頁 293-316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、阿毘達磨集論研究会	4．巻 24
2．論文標題 梵文和訳『阿毘達磨集論』（５）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 インド学チベット学研究	6．最初と最後の頁 183-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 上
2．論文標題 チベット仏教思想史の再構築にむけて―新出資料カダム全集―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 チベットの歴史と社会　上（歴史篇・宗教篇）	6．最初と最後の頁 208-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 69-2
2．論文標題 サッジャナとマハージャナ―11世紀カシュミールの弥勒論書関連文献群―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 118-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kazuo Kano, Jowita Kramer	4．巻 36
2．論文標題 The Fourth Chapter of the Tattvartha Abhidharmakosatika: On Attaining Restraint, Non-Restraint and Neither-Restraint-nor-Non-Restraint	5．発行年 2021年
3．雑誌名 China Tibetology	6．最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、Jowita Kramer、横山剛、田中裕成、セバスチャン・ネルディヒSebastian Nehrdich、小南薫、中山慧輝	4．巻 2
2．論文標題 律儀の獲得―倶舎論安慧疏・業品第35偈の梵文和訳―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 対法雑誌	6．最初と最後の頁 63-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、李学竹	4．巻 246
2．論文標題 梵文校訂『牟尼意趣荘厳』第一章（fol. 64r2-67v2）―『中観光明』佚文・行者の直観知と無自性論証―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 密教文化	6．最初と最後の頁 5-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 59
2．論文標題 普賢成就法1-54偈試訳	5．発行年 2021年
3．雑誌名 密教学会報	6．最初と最後の頁 27-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

1．著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4．巻 6
2．論文標題 なぜ仏の姿の観想がさとりをもたらすのか(2): Ratnaraksita 著Padmini 第13 章傍論後半和訳註	5．発行年 2021年
3．雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6．最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 伊集院栞、加納和雄、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4．巻 6
2．論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第4章	5．発行年 2021年
3．雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6．最初と最後の頁 33-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kazuo Kano	4．巻 118
2．論文標題 Syntactic analysis of the term tathagatagarbha in Sanskrit fragments and multiple meanings of garbha in the Mahaparinirvanamahasutra	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Acta Asiatica	6．最初と最後の頁 17-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 78
2．論文標題 ゴク・ロデシェーラプ作『書簡・甘露の滴』の新出版本	5．発行年 2020年
3．雑誌名 駒澤大学仏教学部研究紀要	6．最初と最後の頁 57-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 68-2
2．論文標題 中世チベットの僧院における梵文写本の蔵書例：ポカンとリウォチェ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 194-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 51
2．論文標題 アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集	5．発行年 2020年
3．雑誌名 密教学会研究	6．最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 12
2．論文標題 『大般涅槃大経』梵文断片における如来蔵の使用例およびgarbhaのもつ意味の多重性について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 インド論理学研究	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kazuo Kano, Peter Daniel Szanto	4．巻 4
2．論文標題 New pages from the Tibet Museum birch-bark manuscript (1): Fragments Related to Jnanapada	5．発行年 2020年
3．雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6．最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、伊集院栞、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4．巻 42
2．論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第2～3章	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大正大学綜合佛教研究所紀要	6．最初と最後の頁 47-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 244
2．論文標題 聖大乗真言理趣とジャヤバドラ―中世インドネシアの密教儀礼次第とその背景―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 密教文化	6．最初と最後の頁 7-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 67-2
2．論文標題 世親作十地経論の梵文佚文	5．発行年 2019年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kazuo Kano, Xuezhu Li	4．巻 2
2．論文標題 Nayatrayapradipa―新出梵本の予備的報告―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of World Buddhist Cultures	6．最初と最後の頁 125-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄（阿毘達磨集論研究会のメンバーとしての共著）	4．巻 22
2．論文標題 梵文和訳『阿毘達磨集論』（３）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 インド学チベット学研究	6．最初と最後の頁 27-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄（無我義経研究会のメンバーとしての共著）	4．巻 22
2．論文標題 Nairatmapariprccha 梵蔵漢合璧本及び訳注	5．発行年 2019年
3．雑誌名 インド学チベット学研究	6．最初と最後の頁 111-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、松田和信	4．巻 12
2．論文標題 ラトナーカラシャーンティの『般若波羅蜜修習次第』梵文和訳	5．発行年 2018年
3．雑誌名 インド論理学研究	6．最初と最後の頁 145-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加納和雄、李学竹	4．巻 241
2．論文標題 梵文校訂『牟尼意趣荘厳』第一章（fol. 61r5-64r2）―『中観光明』世俗と言説および唯心説批判箇所佚文―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 密教文化	6．最初と最後の頁 5-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、種村隆元、倉西憲一	4．巻 4
2．論文標題 Ratnaraksita 著Padmini: 第13 章傍論後半 Preliminary Edition および注	5．発行年 2019年
3．雑誌名 川崎大師研究所紀要	6．最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄、伊集院栞、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4．巻 41
2．論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1章	5．発行年 2019年
3．雑誌名 大正大学綜合佛教研究所紀要	6．最初と最後の頁 61-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kazuo Kano, Li Xuezhu	4．巻 2019 No 1
2．論文標題 Diplomatic Transcription of the Sanskrit Manuscript of the Munimatalamkara —Chapter 1: Fols. 4r3-7v4—	5．発行年 2019年
3．雑誌名 China Tibetology	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 66-2
2．論文標題 ヴィブーティチャンドラの詩稿	5．発行年 2018年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 加納和雄	4．巻 1
2．論文標題 越境する梵文写本―中世のヒマラヤ地域と南アジアにおける物と人の交流の一側面―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開	6．最初と最後の頁 261-277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄	4．巻 22
2．論文標題 Tathagatagarbhah sarvasatvanam―涅槃経における如来蔵の複合語解釈にかんする試論―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Critical Review for Buddhist Studies	6．最初と最後の頁 9-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加納和雄、李学竹	4．巻 239
2．論文標題 梵文校訂『牟尼意趣荘厳』第一章（fol. 59v4-61r5）―『中観光明』世俗の定義箇所佚文―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 密教文化	6．最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4．巻 3
2．論文標題 Ratnaraksita著Padmini;第1章傍論部―Preliminary Editionおよび註―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 川崎大師研究所紀要	6．最初と最後の頁 25-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計33件（うち招待講演　14件／うち国際学会　14件）

1．発表者名 加納和雄
2．発表標題 密教を軸とする仏教体系概述書の新出梵本-Nayatrayapradipa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya-
3．学会等名 高野山大学密教研究会
4．発表年 2021年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 Nayatrayapradipa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya-顕密の体系を概述する三点の梵文作品-
３．学会等名 日本印度学仏教学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Three Nayatraya Texts
３．学会等名 International Symposium on Eurasian and Buddhist Philology in Memoriam of Professor Tschen Yin-Koh at Tsinghua University. 7 Oct. 2021.（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 サッジャナとマハージャナ―11世紀カシュミールの弥勒論書に関する梵文仏典群―
３．学会等名 印度学仏教学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 中世チベットの僧院における梵文写本の蔵書への言及例：ポカン、リウォチェ、タクルン
３．学会等名 日本印度学仏教学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 密教の小作品群を収める一梵本：チベット伝存の新出写本（アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集）
３．学会等名 日本密教学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 大乗の涅槃経における如来蔵思―近年の研究状況―
３．学会等名 駒沢大学仏教学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 To become a upasaka without taking refuge to the Three Jewels and without receiving the Five Precepts: Possible Target-audiences/readers of the Mahaparinirvanamahasutra
３．学会等名 International Workshop: New Perspectives on the Idea of Buddha-Nature in Indian Buddhism, Hamburg University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Examples of the Term tathagatagarbha Appearing in Indic Tantric Literature
３．学会等名 Tathagatagarbha Across Asia: The Reception of an Influential Mahayana Doctrine in Central and East Asia, Vienna（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Materials and Scripts: Irregular Combination of manuscript-materials and scripts across Indo-Tibetan cultural boarders
３．学会等名 Ludwig-Maximilians-Universitaet, Muenchen（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munimatalamkara
３．学会等名 A Workshop on Late MadhyamikaTexts (Centre for Tibetan Studies of Sichuan University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Nayatrayapradipa
３．学会等名 The Manuscripta Buddhica Workshop & The Vihara Workshop（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Pascale Hugon, Kazuo Kano
２．発表標題 The gateway to Tibetan scholasticism: A new collaborative project
３．学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian Japanese Cooperation Symposium（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Proto-Sarada Materials in Tibet: Move of manuscripts or scribes
３．学会等名 Sarada: Goddess, Learning, Script: On the Sanskrit manuscript culture of Kashmir. Hamburg University: The Centre for the Study of Manuscript Cultures（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 『大般涅槃大経』梵文断片における如来蔵の使用例とその再検討
３．学会等名 第63回国際東方学者会議(ICES)シンポジウム「如来蔵とは何か―如来蔵・仏性思想研究の最前線―」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 牟尼意趣荘厳梵本に引用される十地経論
３．学会等名 高野山密教研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 世親作十地経論の梵文佚文
３．学会等名 印度学仏教学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 中世インド宮廷料理の再現の試み：サンスクリット文レシピ本『料理の鏡』に基づいて
３．学会等名 大正大学綜合佛教研究所（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Some Recent Findings of Sanskrit Manuscripts from Tibet and Ongoing Projects
３．学会等名 World Sanskrit Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 On Transforming Non-scriptural Texts into Buddhavacana: The Ratnagotravibhaga and 無上依経
３．学会等名 Evolution of Scriptures, Formation of Canons（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Overview and ongoing projects on Sanskrit manuscripts from TAR
３．学会等名 Beijing University, Special Lecture（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuo Kano
２．発表標題 Papers, Leaves, and Bark: Manuscript materials across Indo-Tibetan cultural borders
３．学会等名 清華大学, Kaifeng Library（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 蔵伝梵文写本流伝の歴史に関する一考察―13 世紀梵文の手紙を手がかりとして―
３．学会等名 密教研究会学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 越境する梵文写本―中世のヒマラヤ地域、南アジアにおけるモノと人の交流―
３．学会等名 チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究班
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 仏教学における写本研究の位置と課題
３．学会等名 インド論理学研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 ヴィブーティチャンドラの手紙
３．学会等名 日本印度学仏教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 新刊紹介：近年刊行された『蔵区民間所蔵蔵文珍稀文献叢刊』所収の蔵梵二言語写本の価値と共同研究への展望
３．学会等名 日本西蔵学会/チベット学情報交換会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 異文化間を架橋する媒体としての梵文写本の価値―インドとチベットの場合―
３．学会等名 駒澤大学仏教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 梵文で伝存するアバヤーカラグプタの著作
３．学会等名 龍谷大学・CTRC共催国際シンポジウム「チベット仏教と梵文写本研究」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加納和雄
２．発表標題 仏典における宗教的理想と世間的倫理の相克およびその克服についての研究
３．学会等名 上廣倫理財団 助成研究会発表会
４．発表年 2017年

１．発表者名 張本研吾、加納和雄
２．発表標題 全知者存在証明議論の一断面？ゲッティンゲン大学所蔵ラーフラ・サーンクリトヤーヤナ撮影梵文写本Xc14/1d 中の未同定 3 葉について
３．学会等名 インド思想史学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ryugen Tanemura, Kazuo Kano, Kenichi Kuranishi
２．発表標題 Ratnaraksita on the Practice of Meditation;Its Validity and Fruit in Tantric Buddhism
３．学会等名 IABS（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Rahula Sankrtyayana's Visits to Tibet in Quest of Sanskrit Manuscripts
２．発表標題 Kazuo Kano
３．学会等名 International Conference on Rahul Sankrityayan (1893-1963): Maha Pandit in the Land of Snow. 14th to 16th March 2018. Indira Gandhi National Centre for the Arts (IGNCA)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Chizuko Yoshimizu, Hiroshi Nemoto, Kazuo Kano	４．発行年 2018年
２．出版社 Toyo Bunko	５．総ページ数 115
３．書名 Zhang Thang sag pa ’Byung gnas ye shes, dBu ma tshig gsal gyi ti ka, Part II, Folios 26a3-40b5 on Candrakirti’s Prasannapada ad Mulamadhyamakakarika 1.1-14.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://koyasan-u.academia.edu/KazuoKano

https://researchmap.jp/kanokazuo/published_papers/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	李　学竹 (Li Xuezhu)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ミュンヘン大学	ハンブルグ大学		
中国	中国蔵学研究中心	北京大学		
オーストリア	オーストラリア科学アカデミー			

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	ナポリ東洋大学			